第29回ふくおか県民文化祭2021

～出雲の大国主命と古代の女神たち～

宗像三女神と越の沼河比売

（ぬなかわひめ）

美術展

「古代の女神たち」

11月24日（水）▶28日（日）

● 10：00～16：00　会 場／展示室（入場無料）

•テーマ

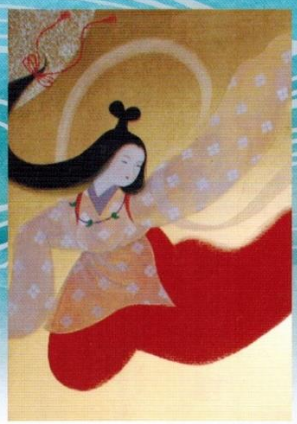
「古代の女神たち」

市杵島姫

伝統工芸士（博多人形）

川崎 幸子氏

福岡市生まれ。
内閣総理大臣賞受賞、福岡県知事賞、通産大臣賞など多数受賞。福岡を代表する博多人形師。
現代の名工国卓越技能保持者
福岡県無形文化財認定



沼河比売

日本画家

川崎 日香理氏

新潟県上越市在住。
古代神話をテーマにした作品を発表し続けている。昨年は記念切手に採用される。諏訪大社や出雲大社などに作品を奉納

主　催／「宗像三女神と越の沼河比売」実行委員会
特別協賛／(株)九電工
後　援／朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK北九州放送局、NHK福岡放送局、RKB毎日放送、FBS福岡放送、九州朝日放送、テレQ、TNCテレビ西日本、FM FUKUOKA、CROSS FM、LOVE FM、九州旅客鉄道株式会社、西日本鉄道株式会社

この事業は、宝くじの収益金を活用して実施しています。

○日本画家・川崎日香浬氏

川崎日香浬(かわさき・ひかり)

新潟県上越市在住
古代神話をテーマにした作品を発表し続けている。
昨年は記念切手に採用される。
諏訪大社や出雲大社などに作品を奉納

○「古代の女神たち」展示作品

奴奈川姫母子像(屏風・二曲一隻　絹本彩色)

岩をもつタケミナカタ
(屏風・二曲一隻　絹本彩色)

奴奈川姫(屏風・二曲一隻　絹本彩色)

龍乗奴奈川姫(屏風・四曲一隻　紙本彩色)

駒ヶ岳伝説（左隻）
(屏風・四曲一隻　紙本彩色)

駒ヶ岳伝説（右隻）
(屏風・四曲一隻　紙本彩色)

佐渡(屏風・六曲一隻　絹本彩色)

龍神　令和の祈り(六曲一隻　絹本彩色)

○博多人形師・川崎幸子氏

川崎幸子(かわさき・さちこ)

福岡市生まれ。
内閣総理大臣賞受賞
福岡県知事賞
通産大臣賞など多数受賞
福岡を代表する博多人形師
現代の名工国卓越技能保持者
福岡県無形文化財認定

○「古代の女神たち」展示作品

1 卑弥呼

2 アメノウズメ

3 宗像三女神　田心媛神

4 斎王倭媛

5　月を離れて（持統天皇）

6 伊勢物語　芥川

7 大葉子

8 稗田阿礼

9 アマテラス

10 宗像三女神　市杵島姫神

11 磐之媛

12 山のしずく

13 いにしへ

14 宮簀媛

15 筑紫の娘子

16 茜さす

前代未聞の歴史的な美術展

歴史作家　河村哲夫

この美術展の発端は、平成 28 年(2016)5 月にさかのぼる。
九州から 30 名ほどで長野県の諏訪大社に旅をした。
7 年に一度の「御柱祭」を見るためである。
松本空港に降り立ち、長野県の穂高神社や尖石縄文考古館などを経て諏訪大社に参拝し、御柱祭でにぎわう街中を歩き回った。
その後新潟県糸魚川市に足をのばし、奴奈川神社に参拝した。そこで説明をされたのが、日本画家の川崎日香浬氏であった。奴奈川神社には奴奈川姫(沼河比売)を祭り、諏訪大社には奴奈川姫と出雲の大国主命との間に生まれた建御名方命を祭っている。
説明を受ける人のなかに、博多人形師の川崎幸子氏もおられた。
二人の川崎さんの初めての出会いである。

この旅は、故志村裕子氏の強い勧めによるものであった。私の最も敬愛する古代史研究家のひとりで、二人の共著として『景行天皇と日本武尊』(原書房・2015)を出版する際に、かねて親交のあった川崎日香浬氏を紹介され、表紙と挿絵をお願いすることになった。それが私と川崎日香浬氏との出会いのきっかけであった。
また、このツアーには、志村裕子氏はご主人で長野県ご出身の明彦氏とともに東京から参加され、バスのなかでご夫婦がマイクを争うようにしてさまざまなお話をされた。バスのなかは終始笑い声に満ちていた。

このとき、志村裕子氏と川崎日香浬氏との間で、「いつか大国主命と奴奈川姫と宗像三女神をテーマに、講演会と二人の川崎さんによる美術展を開催できたらいいね」というような話になった。
ところが、昨年、志村裕子氏が五十代の若さで病気のため急逝された。相前後してともに活動していた高野文生氏(元アクロス福岡事業部長)も病のために亡くなった。
神はいないのか、と嘆き悲しんだが、今度は私がその遺志を継ぐ番である。
コロナ禍の厳しい状況のなかではあったが、福岡県の県民文化祭の一環とし

てやっとのことで実現することができた。二人の盟友も喜んでいるに違いない。

出展される作品を見ているうちに、今回の美術展は表題に書いたように「前代未聞の歴史的な美術展」になるのではないかという予感が湧いてきた。

新潟と博多という遠く隔てられた二人の芸術家が、日本の神話・古代史をテーマに生涯を賭けてひたすら突き進まれている。しかも、親子でも親戚でもないのに、同じ苗字の川崎である。

二人は、5 年前に新潟県の奴奈川神社ではじめて出会われた。

私も志村さんもその場にいた。必然の出会いであった。そのときの出会いがなければ、今回の美術展はなかった。

そして、この宗像の地で、宗像三女神と奴奈川姫がはじめて出会ったのである。

川崎幸子氏と川崎日香理氏を通じて姿を現わしたのである。

宗像三女神・大国主命・奴奈川姫の三者の結びつきの根底に、日本海の古代ネットワークが存在している。

はっきりとそのことを明らかにし、知らしめたのが、今回の美術展なのではないのか。

そういう意味でもまた、「前代未聞の歴史的な美術展」なのである。

以下、出展作品について、私なりの注釈をさせていただいた。鑑賞される際のヒントになればと思う。お二人の川崎氏からみたら、ピント外れの説明かもしれないが、どうかご容赦いただきたい。

令和 3 年 11 月

河村哲夫(かわむら・てつお)

福岡県柳川市生まれ。歴史作家
日本古代史ネットワーク副会長
福岡県文化団体連合会顧問
ふくおかアジア文化塾代表など
著書に『神功皇后の謎を解く』(2013 年 12 月原書房)・『景行天皇と日本武尊』(2014 年 6 月原書房)など多数

【Ⅰ】川崎日香涅氏の作品

⑴ 奴奈川姫母子像

奴奈川姫（沼河比売)は、『古事記』の大国主の段に登場する。

八千矛神（大国主）が高志国の沼河に住む奴奈川姫を妻にしようと思い、越の国に出かけて求愛し、二人は結婚した。

大国主と奴奈川姫との間に生まれた子が建御名方神(タケミナカタ)である。母子の暖かさが感じられる。

⑵ 岩をもつタケミナカタ

高天原勢力は、大国主命に対して出雲の国譲りを迫った。それに対して最後まで抵抗したのが、建御名方神(タケミナカタ)である。腕の太さが勇ましい。

⑶ 奴奈川姫

天を舞う奴奈川姫である。奴奈川姫は越の国(新潟県)の糸魚川・姫川流域を本拠とするヒスイの女王であった。北部九州の遺跡からも姫川のヒスイが出土している。

シルクロードの仏教壁画の飛天あるいは天女のごとき奴奈川姫の神秘的な姿は、オリエントの画法を受け継いでいる。金の濃淡に天女が映える。

⑷ 龍乗奴奈川姫

龍に乗り、天に召される奴奈川姫である。

糸魚川市に稚子（ちご）ヶ池という池あり。大国主命と不仲になった奴奈川姫は、この池に入水して自害したという。龍は建御名方神である。龍となった息子は母を天に運んだ。龍に乗る天女の動きがすばらしい。

⑸ 駒ヶ岳伝説（左隻）

糸魚川市の駒ヶ岳の麓の村に奴奈川姫が住んでいたとき、出雲の大国主命が訪ねてきた。そして、奴奈川姫をめぐって土地の神と勝負がおこなわれた。

大国主は牛に乗り、土地の神は白い馬に乗って、駒ヶ岳の頂上から跳んだ。

この絵は、牛に乗った大国主命である。躍動する前の静かな牛である。

⑹ 駒ヶ岳伝説（右隻）

勇ましく走る馬に乗っているのは、土地の神である。

この勝負は大国主命の勝ちに終わり、奴奈川姫と結ばれた。

⑺ 佐渡

荒波の青と白、踊る大魚、波と戦う海の男たち――迫力がある。

⑻ 龍神

金箔と黒の濃淡――龍神の勢いに圧倒される。

【Ⅱ】川崎幸子氏の作品

⑴ 卑弥呼

ご存じ邪馬台国の女王である。邪馬台国と卑弥呼の謎をめぐって、長年論争が続けられているが、九州の女王なのか、近畿の女王なのか、いまだ決着していない。色づかいがはっきりした卑弥呼像である。強い統率者のイメージを感じる。

⑵ アメノウヅメ

天照大神が天の岩戸に隠れ、世の中が闇に包まれたとき、岩戸の前で祭祀が行われた。そのとき踊ったのがアメノウヅメであった。のち、猿田彦と結婚したと伝わる。

⑶ 宗像三女神　田心媛神

沖ノ島の沖津宮に祭られる。大国主命の妃となり、アジスキタカヒコネ(阿遅鉏高彦根命)をもうけたとされる。天に向かって祈る姿が神々しい。

⑷ 斎王倭媛

第 11 代垂仁天皇の皇女である。八咫鏡を伊勢の地に祭ったとされ、天照大神に仕える斎宮(さいぐう・さいくう)となったとされる。東国へ出征する甥のヤマトタケルに草薙剣を与えたことでも知られる。淡い色づかいがロマン的である。

⑸ 月を離れて（持統天皇）

史上 3 人目の女性天皇である。天智天皇の皇女でありながら、父の弟・大海人皇子の妃となり、壬申の乱を経て夫が天武天皇になるや皇后となった。

天武天皇・草壁皇太子没後、みずから天皇に即位して、藤原京に遷都した。そして、孫の文武天皇に生前譲位し、終生文武天皇を支えた。奈良時代を迎える基盤をつくった天皇といえよう。凛とした姿がすばらしい。

⑹伊勢物語　芥川

京の都から芥川を渡って駆け落ちする二人の男女。男が背負っているのは、光る露を露とも知らぬ高貴な女性である。その女性は、まもなく荒れた蔵のなかで鬼に喰われてしまう。人生最後の輝きの一瞬を切り取った作品である。平安貴族の男女の心模様を感じる。本年令和 3 年度の総理大臣賞受賞の傑作である。

⑺大葉子

欽明天皇時代、夫の伊企儺に従い新羅に渡った女性である。

ところが新羅軍に敗れて夫婦は捕虜になった。新羅兵は夫を辱めて殺したが、大葉子は故郷の難波(大阪)の方向に向かって、「韓国の 城の上に立ちて大葉子は 領巾振らすも 日本へ向きて」と歌い、それに唱和して捕虜日本兵たちも、「韓国の 城の上に立たし大葉子は 領巾振らす見ゆ 難波へ向きて」と歌ったという。

領巾を振る大葉子の姿と、衣の濃淡が何とも高貴。

⑻ 稗田阿礼

太安万侶とともに、『古事記』の編さんに携わった人物である。

『古事記』の序文には、天武天皇に「舎人(とねり)」として仕え、28 歳のとき、記憶力の良さを見込まれて『帝紀』『旧辞』等の誦習を命ぜられた、と記されている。性別は不明であるが、川崎氏は女性として造形されている。

稗田氏とアメノウヅメを始祖とする猿女君は同族関係にあり、巫女あるいは女官として朝廷に仕えていたとする学問的見解に立脚しているのであろう。

川崎氏の深い学識に支えられた一品といえよう。

⑼ アマテラス

天照大神(アマテラス)は、天皇家の皇祖神であり、日本民族の氏神とされる女神である。邪馬台国九州説では、卑弥呼に比定する説も根強い。

弟のスサノオを迎え撃つために、男装して弓と矢を携えている。朱と青の衣に勇ましさを感じる。

⑽宗像三女神　市杵島姫神

宗像三女神は、天照大神(アマテラス)の娘である。スサノオとの誓約(うけひ)によって生まれたとされる。三人の女神のうち、市杵島姫神が最も有名であろう。厳島神社という社名は、市杵島姫に由来する。市杵島姫神は、他の二人の姉妹(田心姫と湍津姫)が大国主命の妃になったのに対し、日向に天孫降臨したニニギノミコトの兄弟のニギハヤヒの妃になったとする伝承がある。子の天香語山命は名古屋を拠点とする尾張氏の祖となった。風に揺れる衣の動きに感動。

(11)磐之媛

仁徳天皇の正妃――皇后である。仁徳天皇は慈愛の天皇として知られる。

しかし、磐之媛にとっては一人の男性であり、最愛の夫であった。夫を愛するあまり、嫉妬心に苦しめられた。ついには、山城の国(京都)に別居したまま生涯を終えた。

磐之媛の父は葛城襲津彦で、祖父は武内宿禰である。兄の戸田的宿禰は、浮羽郡(福岡県うきは市)を拠点に、中央でも活躍した豪族である。したがって、磐之媛の母は浮羽の女性ということになる。日本独特の色づかい、表情につつましさを感じる。

(12)山のしづく

万葉の歌人石川郎女をイメージした魅力的な像である。天武天皇の皇子大津皇子との恋で知られる。おなじ天武天皇の皇子草壁皇子からも愛されたという。

グリーン色がすらりとした女性にぴったり。造形美の極致である。筆者の最も大好きな一品である。総理大臣賞受賞の傑作である。

(13)いにしへ（額田王）

歌人である。美貌の女性であったともいう。『日本書紀』には、鏡王の娘で、大海人皇子（天武天皇）に嫁いで十市皇女を生む、とある。人妻でありながら、大海人皇子の兄である中大兄皇子（天智天皇）に寵愛されたという噂話は根強い。

古代模様の組み合わせと、胸のふくよかさに魅力がある。

(14)宮簀媛（ミヤズヒメ）

尾張一族の娘である。東征するヤマトタケルの妃になった。ヤマトタケルに授けられた草薙剣は、熱田神宮(名古屋市)に祭られている。

表情がかわいく、気品に満ちている。

(15)筑紫の娘子

通称、児島という。大伴旅人が大宰府にいたとき親しくしていた女流歌人である。万葉集巻三に一首、巻六に二首の歌を残している。

乙女の若々しさを感じる色づかい。古代の九州の豊かな暮らしぶりが伝わってくる。

(16)茜さす

大海人皇子（天武天皇）と額田王である。茜色に包まれた二人の愛情が伝わってくる。